

# 山陰職人の会

## 第10号

平成21年9月発行

「山陰職人の会」は、街で活躍する職人（職業人）の方々を建築家の視点で見つめ紹介する紙面です。会が存在するわけではありません。名称は、職人は社会の基盤となる職人文化という肉体的世界で活動する仲間同士であるとの思いに由来しています。

※著作権は小村和也にあります。本誌の複製・配布は自由です。ただし原文の部分使用や編集は不可。

## bjリーグ

### 祝！bjリーグ参入決定！

第6号で紹介した島根にbjリーグのプロバスケットボールチームをつくる活動をしてられる(株)島根スポーツ振興協会のチーフマネージャー宮下博行さんを再び取材しました。

#### ★参入決定

島根県の各地域を巡り繰り広げられた「1万本シュートプロジェクト」は、大きな盛り上がりのなかで達成されました。自治体では、溝口善兵衛島根県知事から実現に向けて大きな支援を得るとともに、島根県経済同友会の宮脇和秀代表幹事が応援団の先頭に立たれ、官民挙げての大きなうねりとなり、8月19日のbjリーグ理事会で正式に決定しました。

#### ★スケジュール

- ① チーム名決定
- ② チームマスコットキャラクター募集
- ③ チアガール募集
- ④ チームブースタークラブ会員募集
- ⑤ 島根チーム選手決定 (H22年7月)
- ⑥ bjリーグ2010シーズンスタート (H22年10月)

#### ★島根での優勝パレードを目指して！

「皆様の絶大なご協力のおかげで参入決定となりました。ありがとうございます。ようやく入口に立てましたので、これから実

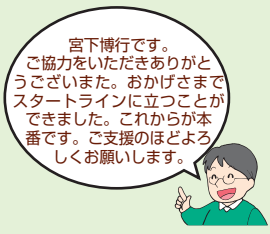
際のチームをつくりあげていきます。これから本番です。何より地域の皆様の応援を頂けることが一番の原動力です。来年に島根のプロチームができましたら、皆様で育ててください。島根で優勝パレードができるよう、皆様と感動と喜びを共有していきたいと思っています。どうかよろしくお願いします。」

#### ★支援金の募集

「おらがまちのふるさとチームをみんなで応援しよう！」をタイトルに支援金を募集。企業・団体・個人を問わず、一口1万円～。「プロバスケットボールチームの維持費は他のスポーツとくらべかなりリーズナブルです。それでも年間に1億5千万円～2億円の維持費がかかります。入場料収入とともに、支援金が大きな支えとなりますので、どうかご協力をお願いします。」

#### ★bjリーグ プレシーズンマッチ

「H21年9月27日(日)に、松江市総合体育館で山陰初となるプロバスケットのプレシーズンマッチが行われます。皆様と実際の試合がどのようなものか体感いただけるよい機会になると思いますので、どうかご観戦ください。島根はミニバス発祥の地であり、バスケットのメッカと言われてきた地です。再び、地域の息吹を盛り上げて参りましょう。よろしくお待ちしています。」



宮下博行です。ご協力をいただきありがとうございます。おかげさまでスタートラインに立つことができました。これから本番です。ご支援のほどよろしくお願いします。



チーフマネージャー  
みやしたひろゆき  
宮下博行さん  
(株)島根スポーツ振興協会  
10-1-1



## 我電創水 クリッパー (特許)



はまむらけいいち  
濱村圭一さん  
(島崎電機(株))  
10-1-2

53歳。出雲市生まれ。島根高等職業訓練校 電気機械科卒業。ハマ電機を経て独立。

★機械いじりと音楽好きの子供時代  
「叔父がカメラ好きで、家に現像設備があり、触ってフィルムを全部白くしてしまい、えらく怒られました。(笑)とにかく機械いじりが好きで、小学校5年生のときにゲルマニウムラジオを作って、ラジオから流れるギターの色音を聞いていました。中学生のころは真空管のステレオプリメインアンプを作りました。部品を買いに、出雲から松江の山崎電気に通いました。一人っ子だったので、機械ものが好きな叔父やいとこと触れあうことが多く、ずいぶん影響を受けました。」

#### ★就職

「親に内緒で大阪のシオノギ製薬の入社試験を受け合格しました。薬を作る機械の生産技術者を募集していたんです。しかし親は、叔父の会社に就職させることを勝手に決めていて反対されました。随分悩まして、6ヶ月間親と口を利かす、松江の友人宅へ泊りこみ家に帰りませんでした。しかし、親に従うしかないときあきらめ、叔父の経営するハマ電機に就職しました。こういうこともあって、今までは受けていなかった生産機械の自動化システムの開発の仕事などを受注するようになりましたが、今にして思えば、こういうこともあって、私の希望をかなえようとしたのだと思います。つまり、こういう仕事をしたいという私の夢はかなっていたのだと思います。」

#### ★自動化システムに取り組んだ10年 身内ゆえの苦しみ

「就職したころは、まさしく自動化の波が押し寄せている時代でした。学校を出たばかりで右も左もわかりませんでした。学校で電気回路を学びましたので、設計できるのですが、具体的な実際の部品が分からず、どう組み立てていいのか雲をつかむ思いでした。とにかく

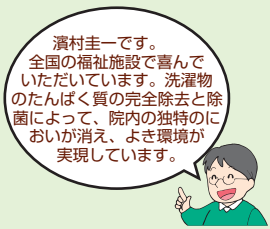
ゼロからの発想・創作作業でした。このため、納期が間に合わず、顧客から怒られることがありました。このころから、徹夜の人生が始まりました。同僚や先輩社員は、技術的なことが分かった人がいない状況でした。やりたくない仕事を徹夜して開発しても、「身内にあまい！」というレッテルを貼られ、つらい思いをしました。」

#### ★独立 開業 パブル崩壊

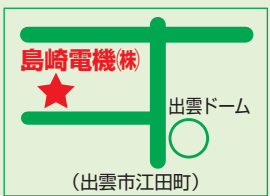
「機械と電気を別々に開発すると片方にしわ寄せがくるため、機械と電気を同時に開発したいと叔父に進言しましたが、聞き入れてもらえず、経営のイロハも知らないのに独立しました。育苗ラインや検査装置の開発、大手電装会社や大手厨房機器メーカーの検査装置の開発を依頼され、順調に受注し開発してきました。パブルが崩壊し不況になり仕事がゼロになったときに、機械加工の設計と開発を依頼され、建築金具シメールをつくりましたが、それが爆発的に売れました。」

#### ★出雲市新ビジネス支援事業 我電創水の開発 特許取得

「当時、出雲市の産業コーディネーターだった堀江修二先生と出会い、出雲市役所の福祉課の方が、福祉施設で活用できる脱臭・除菌装置をつくってはどうか、というヒントをいただき開発に着手しました。電解水装置の仕組みを堀江先生に教えていただき、試作をつくっては隣の福祉施設に協力いただき、洗濯物をほろほろにしてしまう日々が続きました。触媒に塩を使うために水に塩がまざり生地を傷てしまいます。1年以上の時間が経ち、とても開発などできないときあきらめかけたときに、ふとアイデアが湧き開発に成功しました。3つの特許を取得でき、現在、県内はもとより全国各地の福祉施設に普及しはじめています。販売スピードがのろいのは、ひとえに私の営業センスのなさですね。(笑)」



濱村圭一です。全国の福祉施設で喜んでいただいています。洗濯物のたんばく質の完全除去と除菌によって、院内の独特においが消え、よき環境が実現しています。



## 広瀬 緋



ながたよしこ  
永田佳子さん  
(無形文化財)  
10-1-3

1951年生まれ。広瀬町出身。安来高校。藍染天野屋三代目島根県無形文化財天野圭(けい)氏の四女。現在、広瀬緋の伝承に尽力。島根県指定無形文化財に認定。

#### ★家業を継ぐ 父の思いを知る

「子供のころはおてんばで、とにかくここを離れたくて京都の専門学校へ入りました。当時、米子に行くとも都会だと思っていたので、京都はカルチャーショックでした。目新しい世界に驚きました。親の束縛がなくなりましたので、色々チャレンジしてみました。これからの女性は職業を持つべきだとの父の教えもあり、一人できる仕事を考えたとき、目の前に広瀬緋がありました。父と衝突していた私が、親元に帰って家業を継ぐことになる不思議さを感じたものでした。始めたころはすいぶん迷いがありましたが、10年20年経って、これが私の生涯をかけての仕事なんだと思えるようになったとき、父が広瀬緋の伝統を守るためにしてきたことの意義を感じました。父からほんとうに多くのことを学んできました。」

#### ★広瀬緋伝習所

「緋は江戸末期の文化文政のころから全国的に織られ始めました。広瀬緋のはじまりは、町医長岡謙祥の妻長岡貞子が伯耆国米子町から伝えたと言われています。柿渋を塗った広瀬和紙で型紙を作り、①型付けをし、型付けた糸を「あそそ」で②緋くくりをします。括った緋糸を藍がめで③藍染めます。染め



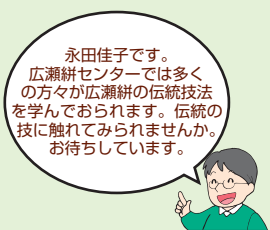
永田佳子さんの作品  
家庭画報 2009.10月号で紹介

#### ★緋のタビストリー 縦2.5m×横4m

「平成10年、大田市のアステラスの緋のタビストリーの製作依頼が来ました。開館まで1年もありませんでした。デザインから染め、織りまで短期間で仕上げなければならず、父も多くの糸を染めてくれました。その折に、先日亡くなられた、文化財の権威の持田豊先生にご協力いただき、額を作ってくださいました。実質の製作期間は半年もなく、徹夜の毎日でした。ほんとうにたくさんの方々の皆様のご協力のもとでつくり上げることができました。」



大田市アステラス タビストリー



永田佳子です。広瀬緋センターでは多くの方々から広瀬緋の伝統技法を学んでおられます。伝統の技に触れてみられませんか。お待ちしております。



## 未来の職人さん



### 《島根県立出雲商業高等学校 3年生 経済調査部》 『縁と愛』を出雲から！～オリジナルZENZAIの商品開発を通して～

8月19日に出雲商業高校で開催された「平成21年度島根県高等学校生徒商業研究発表大会」で、最優秀賞を獲得され、中国大会出場を決めました。

「私たちは、昨年度より『ぜんざい』を通して全国に出雲をPRできないか考えてきました。昨年の出雲神話まつり、出商デパート、今年は出雲市役所新庁舎記念鍋フェスティバル、アトネスいすもの縁引寄市、四方綱引全国大会、島根県立古代出雲歴史博物館などでオリジナル縁結びぜんざいを販売・提供し、多くのお客様に喜んでいただきました。今年度は、産学官連携課題研究事業として「出雲商業オリジナルぜんざいの商品開発」に取り組んでいます。現在コンビニエンスストア(ファミリーマート)店頭販売の商品開発をしています。ぜんざいは、ローマ字表記すると「ZENZAI」となります。ぜんざいは、「縁」と「愛」のある食べ物です。ぜんざいを通して、出雲を全国発信できるよう今後も商品開発に励みたいと思います。」



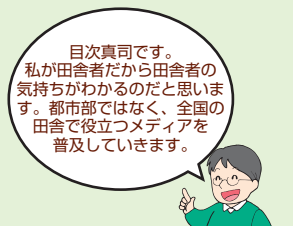
## ケーブルテレビ 企画・設計



めつぎしんじ  
**目次真司さん**  
(株メディアトーク)  
10-2-1

49歳。代表取締役。松江市出身。  
雑賀小学校、松江第四中学校、松江工業高等専門学校土木工学科卒。  
★土木の業界へ Uターン  
「学校を卒業して大阪の建設会社に就職し、2年半、大阪西宮市の現場の現場、名古屋支店のバイパスの現場、四日市の宅地造成の現場の現場で約2年半過ごしました。とにかく休みなせでした。現場では作業員と一緒に。人の気持ちで大事だとつくづく思いました。ある日曜日の昼に、作業員がコンボの下敷きになって亡くなったんです。なぜやめると言わなかったのか、第三者が言わなければいけなかったんだ、と後悔しました。23歳で松江に帰り、大手管材会社に入社しました。この会社は、農業資材のビニールハウスの納入がメインでした。ビニールハウスは設置場所や規模に応じて設計しなければならず、私が設計係りになり、JA関係をはじめとして広域をエリアとしていました。」  
★ケーブルテレビの設計  
「兄が米子の映像製作会社で役員をされていて、地元でケーブルテレビをつくるので、その仕事を手掛けないか、と声をかけられました。愛知電子㈱に入社し、山陰ケーブルビジョン㈱、㈱中海テレビ施設を構築しました。施設が完成し引渡しをしたときが30歳でした。このとき、ふと自分の人生はこのままでいいのかもしれない、夢を追う決心をしました。現場の経験を生かし、ケーブル局のために何かできないかと考え、設計事務所を起業することにしました。その後大手電機メーカーからの依頼で西宮市のケーブルテレビの工事にかかわることになりました。奇遇ですが最初に私が就職した建設会社が筆頭株主だったので恩返しの気持ちで引き受けました。大阪出

稼ぎ時代の始まりです。最初は週4日、最終年には週2日、車で朝5時に家を出て大阪の現場に向かい、9時からの仕事をこなし、旅館に泊まり最終日は車で帰る生活をしました。まだCADがない時代だったので、現場のあと旅館で設計図面のトレースをしたり、とにかく頑張りました。そのおかげで徐々に設計の仕事も増え社員も雇うことができました。そのメーカーには結局6年間お世話になり、西宮を始め豊中、池田の現場で最後は副所長までさせていただきました。本当にいろいろ素晴らしい経験をさせていただきました。」  
★独自の設計・監理  
「そんな折に、赤来町からの設計依頼が入りました。設計事務所として、どのメーカーも入札に参加できる中立の設計図を描かなければいけません。悩んだ末に増幅器によって共通化できることを発見し、10社の入札で通常の1/3の予算でできました。西日本で初めて、総務省や多くの自治体が視察に訪れました。住民説明会、開局イベント開催、イベント生中継、ホームページ制作など、本来の業務に入っていないことも手掛けました。とにかく地域の皆さんに早くなじんでいただくことが大事です。」  
★全国各地のケーブルテレビ立ち上げに参画 新事業  
「その後、大東町、浜田市、三次市、日南町、南部町のケーブルテレビを手掛けさせていただき、福井県、三重県など全国からも声をかけていただけるようになりました。また昨年新会社を設立し、新事業として「知らせずケン」というテレビ電話付の告知端末を開発し、全国へ販売しております。地域の方たちのためにさまざまなご協力をしたいと思っています。島根県、島根ブランドとして頑張ります。」



目次真司です。私が田舎者だから田舎者の気持ちがわかるのだと思います。都市部ではなく、全国の田舎で役立つメディアを普及していきます。

テクノアークしまね  
**株メディアトーク**  
(松江市北陵町)  
〒690-0816  
島根県松江市北陵町47  
TEL 0852-31-7347  
FAX 0852-31-7343

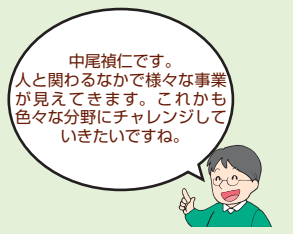
## プランニング



なかおよしひと  
**中尾禎仁さん**  
(株こころスタイル)  
10-2-2

41歳。大阪生まれ。6歳で父の出身地の出雲市湖陵町へ移住。  
湖陵小、湖陵中、出雲工業卒。  
★子供時代 いけす子 剣道一直線  
「大阪では、近所に大きな紡績会社があり環境が悪く、光化学スモッグで、友達が唇を紫にして倒れるんです。昭和48年6歳の時に父の実家に引っ越しました。泉大津、京都、鳥取、島根と13時間かけて朝6時に湖陵町に到着。実家で飼っていた豚のにおいを強烈に覚えています。幼稚園では、言葉の違いをからかわれましたが、すぐなじみました。大阪は全体がとにかく祭り好きなんです。島根の祭りのスケールの違いを感じました。湖陵小学校のころは授業を抜け出しては母の仕事場に行ってお茶飲んでいました。(笑) 学校から連絡が入り大騒ぎでした。小学校4年から剣道をはじめ24~25歳までやりまして、16歳の新人戦では準優勝、県大会で団体ベスト4、個人ベスト16という戦績でした。中学は陸上部がなく、校内記録会で早いものが陸上の大会に出させられ、私は1,500mと800mに出ました。春から夏にかけて陸上の練習、剣道の部活、道場での練習と、午後9時まで毎日やりました。中学では、応援団長でした。上の者に屈しないお山の大将でした。そんなことで、幼稚園のころから中学まで、親がず〜と学校に呼び出されていました。(苦笑) 高校1年のとき、大社のご縁祭りで、ぶつかって喧嘩して、とにかくとんでもないやつでした。(笑)」  
★就職 研究開発の日々  
「農業関係へ就職したくて、県立農業大学校を受験し合格しましたが、全寮制であることを知り、親には不合格だったとウソをつきました。山陰建設工業㈱に入社し、キチンキトサンの研究のため島根大学の

松田研究室で4年間研究生となって研究しました。当時の島根県立工業技術センターの食品科の堀江先生、資源科の酒井先生にお世話になりました。めでたくキチン・キトサンの土壌改良材を完成させましたが、とにかく研究室に一人こもって、ひたすら微生物と向き合う毎日です。一度研究が始まると3日間不眠不休のときもありました。辛臭臭くて精神的に参りました。そこで、一念発起、人と接する仕事をしたいということで現在の業界に転職しました。」  
★転職 起業 アメリカ進出 (株メディアスコープ)に参加  
「山下プランニングに入社し、市町村の4~5年間の中長期振興計画の作成を手掛けました。その間に色々な人と出会い、パンフをつくる仕事、イベント企画と実行など、あらゆる企画事業が見えました。25~26歳の時、市町村広域連合関係で、隠岐の島7カ町村、大田銀の道を担当し、大いに恥をかきました。32歳で役員となりましたが、一度失敗しても40歳からやりなせよと思い、H17年6月、37歳で起業しました。H17年8月アメリカネシー州でCOCORO, INCを設立。H17年9月カラオケボックス開店。H18年12月ギリシャ料理のレストランを取得。H19年3月シバー開店。日本でもH17年6月こころファクトリーを起業、H19年1月(株)こころスタイルとして法人化しました。2011年に地上波のアナログ放送が終了するのに伴い、余ったアナログ帯域を利用するビジネスプラン、ユビキタス特区の電波を受け、サイネージ(掲示板)や多機能カードと連動させるメディアサービスを行う(株)メディアスコープの設立に参加することとなりました。」



中尾禎仁です。人と関わるなかで様々な事業が見えてきます。これかも色々な分野にチャレンジしていきたいですね。

テクノアークしまね  
**株メディアスコープ**  
(松江市北陵町)  
島根県松江市北陵町51-2  
TEL 0852-31-9011  
FAX 0852-31-9022  
(株)こころスタイル  
島根県松江市中原町167-1  
第2サカタビル3F  
TEL 0852-60-5260  
FAX 050-3488-3174

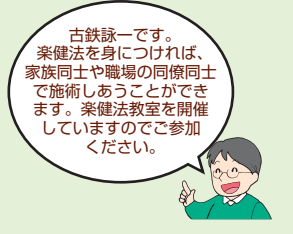
## 楽健法(二人ヨガ)



こてつえいいち  
**古鉄詠一さん**  
(KOTE-TWO)  
10-2-3

46歳。松江市出身。  
島根県立松江工業高校卒。三重県ホンダ技研鈴鹿製作所でアルバイト(季節工)。車体の組立等を11カ月。資金を貯めて、モルモン教の宣教師として、1年半、東京方面で伝道活動。  
★子供時代 吃音のため引っこ込み思案 モルモン教との出会い  
「子供のころは吃音で、友達と遊ばないので野球のルールさえも知りませんでした。小学校は剣道、中学では柔道をやりましたが、試合で勝った記憶はありません。スポーツも勉強もできない、ネクラで弱虫だったのでクラスの女の子からもいじめられました。そんな自分がいやで、『変わりたい!』という強い願いがありました。高2の時、モルモン教のアメリカ人宣教師と出会い、『あなたは神の子、あなたは素晴らしい可能性がある!』と言われたんです。誰からも言われたことがないことを、アメリカ人の青年から言われたことがきっかけとなり1カ月後に、クリスチャンになりました。そして自分を導いてくれた若いアメリカ人宣教師のような人になりたいと思い、宣教師になろうと決心しました。」  
★宣教師 家業継承 ネットワークビジネス  
「家業は父が桐箱製造をしていました。ほんとうにやりたいことも見つからないうちに、家業を継ぐことしか自分にはないと思っていました。そんな私が宣教師になりたいと言ったんですから、先生も親も親戚からも大反対されました。最終的には許してもらえ、高校を卒業後、鈴鹿で季節工として働き、お金を貯めて宣教師になりました。アメリカ人宣教師と寝起きを共にし伝道活動をするのですが、全てがボランティアで自己負担です。最初は道行く人に怖くて声をかけられません。何十人、何十軒も断られる毎日でした。しかしこの時

期頑張ってやり続けた経験が、その後の人生に大きな影響を与えてくれました。1年半の活動を終えた後、両親との約束を果たすべく家業に入りました。36歳まで家業に専念した後、友人がネットワークビジネスを伝えてくれて、翌年から家業を続けながら家内と取り組み11年目になりました。」  
★ダウン症の娘 過酷な医療現場 楽健法で恩返し  
「2番目の子供がダウン症と重度の心臓障害で生まれました。そこで家族の生活は大きな節目を迎えます。3年半の間に4つの病院で手術、入院を繰り返しました。夫婦で交代しながら、病院で泊まり込みの付き添い生活を通して見たものは、医療の現場で働く医師・看護師さんたちの過酷な勤務状況でした。子供の命を助けてくださった医師。看護師さんたちに恩返しをしたいと思い医療従事者を癒すリラクゼーションサロンをしよう決心しました。様々な施術を探す中で楽健法(二人ヨガ)というとてもユニークな施術と出会いました。それは足で踏む整体で、受ける側も施術側も双方が健康になるという、大変効果的な施術でした。1年間教室に通い習得し、現在、松江市立病院で週3回、ボランティアで勤務明けの看護師さんたちに楽健法をさせていただき、大変好評です。これからの目標は、院内に癒しのスペースをつくること。高齢化日本一の島根県で、一人に、楽健法を広めて、日本一健康保険を使わない県にすることです。」



古鉄詠一です。楽健法を身につければ、家族同士や職場の同僚同士で施術しあうことができます。楽健法教室を開催していますので参加ください。

楽健法教室  
〒690-0051  
島根県松江市横濱町35  
TEL 0852-21-6522  
FAX 0852-22-8527  
KOTE-TWO  
山陰合同銀行 南出張所  
(松江市横濱町)

《社会学習・生涯学習への活用について》  
島根県教育庁・鳥取県教育委員会を通じて島根県・鳥取県下の全ての小学校・中学校・特別支援学校・高等学校へ本誌が配布されるとともに、各自治体から公民館へも配布されています。学校並びに公民館から本誌で紹介した職人(職業者)の方々へ講演や見学を希望される場合は下記へご相談ください。  
島根県関係 島根県教育庁高校教育課産学連携スタッフ 0852-22-6867  
鳥取県関係 鳥取県教育委員会事務局高等学校課指導係 0857-26-7786

■編集記  
第6号で紹介したbjリーグの宮下さんの活躍で、いよいよプロバスケットボールが島根に誕生することになりました。これからは本誌でbjリーグを紹介していきます。産業振興支援を受けて開発された島崎電機株式の濱村社長と、(株)メディアトークの目次社長は全国的な事業展開をしておられ、(株)こころスタイルの中尾社長はアメリカへ進出されました。島根に拠点を置く会社の今後の活躍に注目です。伝統をくぐむ広瀬耕の永田さん、医療現場の実態から楽健法の普及を目指す古鉄さんの活動は地域を支える大きな力となっています。本誌はこのような活動を心から応援して参ります。

こむらかずや  
■発行者 建築家 小村和也(一級建築士)  
事務局(有)アートクラフト設計事務所  
〒690-0002 松江市大正町448-1  
TEL 0852-59-5522 FAX 0852-59-5512  
URL http://www.art-craft.co.jp e-mail info@art-craft.co.jp  
建築家 小村和也  
中学時代から建築家を志し、22歳の時に後に世界的な建築家となる安藤忠雄と出会い、以後10年間、安藤忠雄建築研究所を訪問し、建築の真髄に触れる。  
H15年~H19年 島根県ソフトビジネスパークで活動  
作品:小樽市指定歴史的建造物 遠藤又兵衛邸  
再生プロジェクト(北海道) ほか  
画:美術教員(出雲商業高校)  
高橋恭子さん

1等・前後賞合わせて  
**2億円**  
2009年 新市町村振興宝くじ  
**オータムジャンボ宝くじ**  
発売期間 9/28日▶10/16日  
この宝くじの収益金は、あなたの市町村のまちづくりに役立っています。ご購入は県内の発売所です。  
(財)島根県市町村振興協会